

令和2年度 学校教育自己診断分析

校長 浅尾 悦司

対象

生徒 701 名（回収率 92.8%） 保護者 518 名（回収率 68.6%）

対象別考察

<生徒>

- ・27 項目において肯定率が増加した。そのうち 10 項目は 5 ポイント以上増加しており教職員による日頃の教育活動の成果であり、嬉しい結果である。特に、授業における満足度が大きく増加したことについては、授業改善に向けた教員個人はもとより、組織としての取組みが生徒の満足度に繋がっていると思われる。新学習指導要領による教育課程の実施が目前にせまるなか、引き続き、生徒にとって「必要な力」、そして 1 人 1 台端末時代を見据えた「効果的な教授法」について、組織的な授業改革を推進しなければならない。
- ・教員側の生徒に対する人権意識の向上により、「教員からの寄り添い」を感じる生徒が増加したことがうかがえる。それが生徒指導への納得感の向上につながった。また、生徒の多様化が進むとともに、共生推進教室を設置している本校にとって、教員集団のカウンセリングマインドの向上はとても大切な視点である。

<保護者>

- ・24 項目において肯定率が増加するとともに回収率が 23 ポイント上昇し 69%となった。5 ポイント以上の増減が生じた項目に着目する。

<肯定率が減少した項目は 2 項目>

- ・「26. 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」が 9 ポイント減少し 71%となった。
 - ・「15. 体育祭（今年度はスポーツ大会）、文化祭（今年度は青雲フェス）、音楽祭や修学旅行などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。」が 9 ポイント減少し 71%となった。
- いずれもコロナ禍で体育祭の中止、文化祭の規模縮小が減少の原因と考えられる。保護者、生徒の心情をくみ取り、来年度は是非とも行事を復活させたい。

<肯定率が増加した項目は 6 項目>

- ・「6. 担任は必要に応じて家庭へ連絡している。」が 7 ポイント回復し 83%となった。担任のきめ細かい保護者との情報共有を評価いただけた。
- ・「8. 学校は将来の進路や職業理解について適切な指導を行なっている」が 2 年連続で減少していたが 6 ポイント回復し 87%となった。その他、進路指導全般に対して高い評価を得ている。
- ・「9. 子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」が 8 ポイント回復し 53%となった。ただ保護者の受け止め方は生徒の回答「3. 自分の学力に合った授業が多い。」の 84%「4. 興味・関心を持って取り組むことができる授業が多い。」72%との乖離がみられる。
- ・「17. 学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を養おうとしている。」5 ポイント回復し 88%となった。道徳心や規範意識を育む本校の教育活動に対して高い評価を得ている。
- ・「18. 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている。」5 ポイント回復し 85%となった。
- ・「21. 学校はすべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。」9 ポイント回復し 83%となった。質問項目 18、21 の結果から本校の人権教育や教職員の人権意識について高い評価を

得ている。担任と生徒指導部等各分掌との連携が強化され生徒、保護者に対してきめ細かい対応ができて
いることがうかがえる。

上記以外で、5ポイント以上増減した項目はなかった。

各カテゴリー別

<学校生活>

- ・「1. 学校へ行くのが楽しい」 生徒 76%・保護者 77%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」 生徒 91%・保護者 89%、「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」 生徒 78%、保護者「13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」82%の肯定であった。多少の増減があるものの多くの生徒が、安心した高校生活を送っており、保護者も安心感を持っていることがうかがえる。
- ・「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」 生徒 73%（3%アップ）、「先生はいじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる」80%（6%アップ）、両質問についての肯定率は増加傾向である。教員側の生徒に対する寄り添い感が伝わっている。多様な生徒が入学してくる状況のなか、大切な視点であると言える。

<学習活動>

- ・「11. 興味・関心、適性・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」 生徒 89%、「3. 自分の学力にあった授業が多い」 生徒 84%、「5. 実験、観察、実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」生徒 65%、「4. 興味・関心を持って取り組むことのできる授業が多い」 生徒 72%、「7. 授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」 生徒 79%、「9. 教え方に工夫をしている先生が多い。」 生徒 75%（2年間で7ポイントアップ）と学習に関する肯定率はほぼ全ての項目で増加した。授業改革に向けた教員による授業の工夫や努力が成果として表れている嬉しい結果である。
- ・「14. 学校の授業以外に、平均すると1日1時間以上学習している」 51%と6ポイント上昇した。理想は生徒自身の内的動機に基づいた学習習慣であるが、まずは、家庭における学習習慣を確立するための取組み（宿題など）をさらに強化していく必要がある。これには教科、学年における取組が必要である。一方、「13. 学校の自習室やHR教室で自習することがある。」52%は、昨年から5ポイント減少した。質問項目14で学習時間が増加していることから自宅等の学校外で学習する生徒が増えたと考えられる。

<キャリア教育>

- ・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」 生徒 84%で昨年と同じ、「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」 生徒 87%と4ポイント増加した。担任とガイダンスの連携が強化されガイダンスでのきめ細かい対応等、進路指導部、担任を中心とした「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

- ・「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる」 生徒 52%と7ポイント増加した。3年連続増加し過半数を超えたが、引き続き今後も粘り強い指導を継続し「説得」「納得」に基づく指導を心がけさらに向上をめざす必要がある。保護者においては「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる」75%（4ポイントアップ）と一定の理解を示していることがうかがえる。

<人権意識・人権教育>

- ・「25. 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」 生徒 79%、「26. 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」 生徒 71%でほぼ昨年並み。保護者においても「18. 学校は人権を尊重する意

識を育てようとしている」85%（5%アップ）と高い肯定率を示している。生徒・教員・保護者合同で SNS をテーマとした人権研修を実施したことも高評価を得た一因といえる。

＜情報提供＞

- ・「27. 学校のホームページを見ることがある」保護者 78%と高い肯定率を示している。動画での学校紹介、学校の様子や部活動の活躍を数多く更新（年 400 回程度のペース）、さらに図書室ブログを新たに開設し、書籍やイベント情報を発信した。今年度はコロナウイルス対応に関して緊急ブログでタイムリーに伝えたことなどが結果につながっている。保護者「28. 学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」94%、「29. 学校は教育情報について提供の努力をしている」89%、と情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い。引き続き、検索回数が増加したホームページを活用しながら、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者はもとより、地域や中学生にも発信していくとともに、学校からの情報発信の手段として、学校教育活動の周知および危機管理における緊急連絡、さらにオンライン授業の発信等を充実させることが必要である。